



STOP!

フルサーマル

米国の反原発団体
Beyond Nuclear
ケビン・キャンパス氏
全国ツアー

東京講演会 (逐次翻訳)

8/10 (火)

18:00 開場

18:30~21:00

講演内容

■米国で頻発する使用済燃料プール等からの放射能汚染水の漏えい事故

■オバマ政権の原発新規立地推進に反対する運動

場所：文京シビックセンター
26階スカイホール

地下鉄「後樂園駅」「春日駅」すぐ
JR水道橋駅 徒歩10分

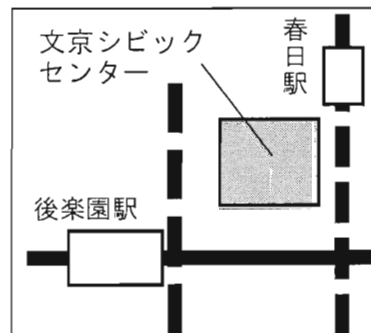
参加費：一般800円

大学生以下500円

●ケビン氏の日本での講演日程●

[詳しくは各地の主催者にお問い合わせください]

- 5日(木) 福島県内での講演会 (脱原発福島ネットワーク)
- 6日(金) 福井県小浜市内での交流会 (小浜市民の会)
- 7日(土) 大阪での講演会 (グリーン・アクション/美浜の会)
- 8日(日) 佐賀での講演会 (玄海原発フルサーマル裁判の会)
- 9日(月) 佐賀での交流会 (玄海原発フルサーマル裁判の会)
- 10日(火) 午後 院内集会 夜 東京集会



東京講演会主催：福島老朽原発を考える会
原子力資料情報室

新宿区神楽坂2-19-405 AIR 03-5225-7213
新宿区住吉町8-5 2階B 03-3357-3800

米

国の著名な反原発団体Beyond Nuclearから、ケビン・キャンパス氏が急きょ来日されます。ケビン氏は、核廃棄物問題や原発の安全性問題について、活動を続けられています。福島・福井・大阪・佐賀・東京で講演会や交流会をもつことになりました。

日本政府と電力各社は、プルサーマルを強行に押し進めています。プルサーマルで生み出される使用済MOXは持って行き場もなく、原発の使用済燃料プールで超長期に保管されることとなります。しかし、米国では、原発の老朽化に伴って、プール等から放射能汚染水が、気づかれることなく漏えいし、周囲の環境を汚染する事故が多発しています。使用済燃料プールでの超長期の保管がいかにか危険なことであるのか、米国での実態を紹介してもらいます。

さらに、ケビン氏はオバマ政権が進める原発新規立地推進に反対する活動のリーダーでもあります。日本のマスコミで報道されているような「原発ルネッサンス」は幻想です。経済危機の中で、銀行等は原発への投資を控え、そのため、オバマ政権は電力会社に債務保証を行い、新規立地を後押ししようとしています。

米国では大衆的な運動で、昨年2月にも、500億ドル（約5兆円）の債務保証を阻止しました。日本政府は、米国やベトナムなどへの原発輸出を推進しようとしています。米国内での新規立地反対の運動と日本からの原発輸出反対の声を連携させていきましょう。

ぜひ、講演会にご参加ください。米国の老朽化する原発の実態と新規立地に反対する運動から多くを学び、日本での活動に活かしていきましょう。

ケビン・キャンパス氏 紹介

(Beyond Nuclearのホームページより)

ケビン・キャンパス氏は、政府と産業界がネバダ州ユッカマウンテンに大量投棄しようとした核廃棄物に対する反対運動を長年リードしてきました。また、ケビン氏は、原子炉敷地内での放射性廃棄物の生成および貯蔵の危険性や、全米の町を通過する核輸送についての高度な知識を持っています。

さらに、新規原子炉や再処理のような無駄な原子力プロジェクトに対する連邦政府の債務保証をなくす活動に集中的に取り組んでいます。Beyond Nuclearに参加する前は、NIRS（原子力情報資料サービス：Nuclear Information and Resource Service）で放射性廃棄物の専門家として8年間活動していました。

ケビン氏はウクライナのチェルノブイリを訪れ、国際ナショナル・チェルノブイリ子どもプロジェクトのミシガン支部を設立し、チェルノブイリ事故で犠牲になった子供たちに米国で医療支援を行っています。彼はまた、ウラン鉱山の近くや、ネバダ核実験場の風下に住む人たち（米国およびカナダにおける放射能被害者）と共に活動しています。国内外の多くのコミュニティで講演をし、また連邦政府、州や地方行政のフォーラム（公開討論会）にも参加しています。ケビン氏はミシガン州出身です。

